

援助会員養成講座のご案内

まつさかファミリーサポートセンターでは、『平成20年度 第2回援助会員養成講座』を行います。
子育てを応援してみようと思われる方、受講してみませんか？

会場 1月22日(木) 嬉野教育会館2階会議室(嬉野保健センター向い)
1月24日(土)・25日(日)・29日(木) 嬉野保健センター
松阪市嬉野町1434番地(近鉄伊勢中川駅より徒歩20分)

対象 松阪市内及び近隣市町村に在住する20歳以上の方

受講料 無料

テキスト代 2,000円

月 日	時 間	講座内容
1月22日(木)	10:00 ~ 12:00	保育サポーターの役割と心得・援助活動体験談
	13:00 ~ 15:00	子どもの心の発達
1月24日(土)	10:00 ~ 12:00	子どもの心に寄り添う
	13:00 ~ 15:00	保育の心 一親を支える気持ち
1月25日(日)	9:30 ~ 11:30	子どもの病気
	12:30 ~ 15:30	子どもの栄養と食生活
1月29日(木)	9:30 ~ 12:30	子どもの事故と安全・幼児救急法
	13:30 ~ 15:30	事業を円滑にすすめるために

- 託児(1日1人500円 おやつ代込み)が必要な方は、事前にお申し込みください。
- 都合により内容等を変更する場合がありますので、ご了承ください



2009年1月(第11号)

ファミサポ。ホットタイム

大切なわたし

発行元 まつさかファミリーサポートセンター

大切なあなた



生まれてきてよかった

ひとりぼっちじゃない



まつさかファミリーサポートセンターは
(特)松阪子どもNPOセンターが
松阪市より委託を受けて運営しています。

『ゆきあそびツアー』に
参加しませんか！



日時 2月7日(土)
行き先 奥伊吹スキー場(滋賀県)
対象 幼児親子・小学生親子・中高生
参加費ほかくわしくはお問い合わせ下さい

交流会のお知らせ

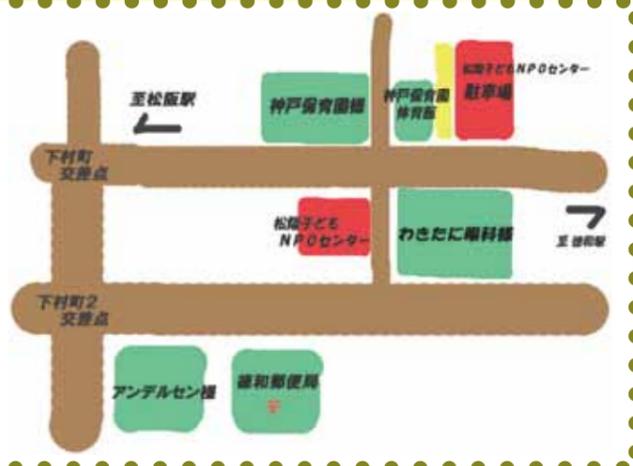
日時: 3月8日(日)
11:00~13:30

会場: 松阪森林公園
対象: 援助会員・依頼会員
両方会員のみなさん
* お子さんも一緒にどうぞ

(事前申し込みが必要です。詳しくは別紙参照)
ジャンボ鉄板で焼きそば&焼きおにぎり・焼き芋
絵本の読み聞かせほか

・まつさかファミリーサポートセンター・

〒515-0043 松阪市下村町1115
(特)松阪子どもNPOセンター内
TEL・FAX 0598-60-1820
E-mail mfsc@mknpo.jp
URL http://www.mknpo.jp/mfsc/
(受付時間) 8:30~19:00
(休日) 土・日・祝日・年末年始



～ 大切なわたし 大切なあなた ～

あなたはどんなことで

「愛されているなあ」「大切にされているなあ」と実感しますか？

こんなに相手のことを想っているのに、相手にはちっとも伝わっていないのでは・・・と思うことはありませんか？
誰でも自分以外の人、自分と同じではありません。性格も違えば、嗜好も違います。お互いを知ろうとしたり、理解しようとするところから、その人を思う気持ちは始まっていると思います。あるがままの自分を認められ、大切にされ、愛されることは、心が健康に育つためには必要なことです。あなたはどんなことで「愛されていること」「大切にされていること」を実感しますか？ 日々の暮らしの中で、相手に届きやすい方法で「愛」を伝えていけるといいですね。

●「スキンシップ」による愛の表現

*相手が心地よいと感じること

例えば・・・

- 「抱きしめる」「頭をなでる」
- 「一緒にダンスをする」「手をつなぐ」
- 「髪の毛をとかす」

・やわらかいスキンシップ、がっしりと受け止めるスキンシップなど、いろんな種類・強さのものの中から相手の好きなスタイルを選びましょう



●「贈り物」にこめる愛

*小さな物でも心をこめて

- ・相手の好みを知ることも大切です
- ・次々と物をほしがる場合は、相手にとって「贈り物」では愛が伝わりにくく、それで心が満たされていないことが多いのです



援助活動やってま～す！！

お母さんのお仕事の関係で、1ヶ月に何度か援助をさせていただいています。最初のうちはお母さんと別れる時に泣いてしまう事もありましたが、今では泣かずに私に抱っこされ「バイバイ」が出来るようになってきました。半年程の援助の間に、よちよち歩きから走り回れるようになり、言葉もどんどん覚えて可愛いおしゃべりが聞けるようになってきました。



●ミニカーがお気に入り●

この時期の成長の早さをつくづく感じ、またそれを一緒に喜びることができる事をとても嬉しく思っています。外遊びが大好きで、“そとに行こう”と私の手を引っ張って玄関に連れて行ったり、おもちゃの置いてある場所を覚えていて自分で一生懸命に出そうとしたり・・・可愛いしぐさに心温まります。小学生の息子も小さい弟が出来たようで嬉しい様子。「今度はいつ来てくれるの？」と次の援助の日を楽しみにしています。

(援助会員：田口寿美子)

●相手の望むことをする「サービス・サポート」

*心から進んでやること

例えば・・・

- 「おもちゃを修理する」「自転車を直す」
- 「どこかに連れて行く」
- ・したくないと思う場合、無理をせず、どうしてやりたくないのか、なぜ嫌なのか考えてみましょう
- 『忙しい時間帯』『苦手なこと』など理由がわかれば他のことを選ぶことができます

●「言葉」で愛を伝える

*存在そのものを認める言葉

例えば・・・

- 「あなたを愛している」
- 「あなたが私の子どもでよかった」
- ・行動をほめることも入ります

— ある親子の場合 —

お母さんは子どもさんが小さい時から「あなたは宝物よ」と言葉で愛情を伝えてみえました。でもお子さんに聞いてみるとそのことは覚えていなくて、きつくなってきたサッカーシューズを「がまんしてもっと履きなさい」と言われたことがなく、新しいシューズをすぐにもらえた。そのことで大切にされていることを実感していたと答えられたそうです。そのお子さんは「言葉」ではなく「物」だったんですね。

— ある女性の場合 —

恋愛中、歩く速度・歩幅を自分に合わせてくれた彼に対して、「大事にされているなあ・愛されているなあ」と感じたそうです。(サポート)

●ともに過ごす「時間」

*100%気持ちを注ぐ

例えば・・・

- 「一緒に釣りに行く」「一緒に料理をする」
- 「一緒に映画を観る」「一緒に絵本を読む」
- 「共通の話題で話をする」
- ・相手が一緒に何かしたい、何かしてほしいと思っていることのために使う時間です



田上時子+エリザベス・クレアリー著（築地書館）
「子どもに愛を伝える方法」参照

アドバイザーから

去る11月23日・24日に開催された「第16回子どもの権利条約フォーラム2008inみえ」に参加しました。その中で、子どもたち自らが発信する場で「声」を聞いた時、安心できる場所で話に耳を傾け、愛情を持って接することで、子どもは自分を「受け入れられた」「認められた」と感じ、そのことで他人をも認められるようになるということを改めて認識しました。このことは、親子関係のみならず、人と人とのすべての関係において言えることではないでしょうか。子どもの気持ちに寄り添うには、自分の心にどれだけ余裕があるかがポイントのように思います。子どもからの様々なサインをキャッチするためにも、日々ゆとりある生活を心がけたいですね。